

平成25年4月4日

京 都 市 長 様

京都市ごみ収集業務評価委員会  
委 員 長 本多 滝夫

### 平成24年度の業務履行に対する評価・意見書

京都市ごみ収集業務評価委員会は、平成25年3月21日の第8回評価委員会において、平成24年中に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などに基つき、平成24年度の業務履行に対する評価を行った。

アンケート調査結果によると、京都市のごみ収集全般に約9割の市民が満足しており、これまでの取組が評価されているものとする。

また、24年10月と25年2月に実施した実地視察を通じて、エコまちステーションにおいては市民に対して積極的にごみ減量、分別等の取組を実施しており、まち美化事務所においては新規採用職員が入ったことで先輩職員の自覚が高まり、更に業務の質が向上していくことが期待できる状況であることが確認できた。

このように基本的にはこれまでの様々な取組を積極的に評価するが、検討の結果、明らかとなった課題に対する意見を以下のとおり付すので、ごみ収集業務等の改善に活用するよう努められたい。

#### 意見1：運転マナー向上の取組の実施

市民アンケート結果においては「ごみ収集車のスピードの出しすぎ、無理な車線変更等の運転を見たことがある」との意見が依然として約2割あり、改善すべき項目である。

運転マナーを向上させるために、今回調査した委託事業者の取組も参考にしながら、効果的な取組を実施されたい。また、委託事業者にも情報提供を行うことで効果的な取組を普及させ、直営、委託を問わず常に市民目線に立った運転を徹底されたい。

#### 意見2：業務に対する職員の誇りと責任感の醸成

職員が責任感や使命感を持つために、業務に対する誇りや自信を醸成できるような人材育成、職場づくりを行っていく必要がある。例えば挨拶を通じて市民との良好な関係を構築していくなど、日々の積み重ねが職員の業務に対するやりがいにも繋がるものと思われる。

ごみ収集運搬業務は、市民生活に一日たりとも欠くことができない重要な業務であることを再認識し、市民から信頼され、市民が誇れるような業務になるよう努められたい。

#### 意見3：ごみ減量に関する広報と啓発の充実

「ごみ半減」の目標達成に向けて、ごみ減量に関する施策を広く市民に広報するとともに、特に広報の効果が期待できる学生や次世代を担う子どもたちに対する啓発を充実させていく必要がある。これら若年層に対する啓発を通じて、その親世代の市民にも理解を深めていただくことが重要であり、工夫を講じること。また、まち美化事務所全体で、より一層、地域に密着したごみの分別や減量の啓発に取り組むこと。

#### 意見4：紙ごみのリサイクルの推進

平成25年度に実施する「包装紙等の雑がみの分別リサイクル拡大に向けた社会実験」及びその後の紙ごみのリサイクルの推進は京都市のごみ減量に不可欠な取組である。市民に雑がみの分別を理解していただくとともに、古紙回収業者とも十分連携のうえ、実効性の高い仕組を構築していくことを期待している。